

大学生活 いくらかかるの？

大学や専門学校に進学すると、具体的にどんなお金が、どれくらいかかるのか？
 まずは用意するお金の全体像を知りましょう。

図5 大学にかかるお金

(単位：円)

区分		学 費			生 活 費			合 計
		授業料 その他の 学校納付金	修学費 課外活動費 通学費	小 計	食費 住宅費 光熱費	保健衛生費 娯楽・嗜好費 その他の日常費	小 計	
大学 (昼間部)	国立	497,900	139,800	637,700	553,600	331,900	885,500	1,523,200
	公立	538,000	128,700	666,700	428,000	340,000	768,000	1,434,700
	私立	1,223,800	150,100	1,373,900	321,100	338,600	659,700	2,033,600
	平均	1,061,600	147,200	1,208,800	367,200	337,500	704,700	1,913,500

大学には国立・公立・私立の区分があります。大学生活にかかるお金は、国立大学で1年間に学費が約64万円、生活費が約89万円で合計153万円。私立大学では学費137万円、生活費66万円で合計203万円となっています。国立や公立は私立に比べて学費が安いのが魅力ですが、日本の大学の8割は私立大学であり、国公立大学に進学するのは「狭き門」となっています。決して裕福な家庭の子どもが私立大学に行き、経済的に厳しい家庭の子どもが国公立大学に進学するものではありません。それぞれの大学に進学した学生の家庭の年間平均収入を見ても、国立854万円、公立750万円、私立871万円と大きな差はありません。国公立を狙いながら、私立大学にも進学できるように教育費を準備するのが正解です。また、ご自分のご家庭の収入と平均収入を比べて驚かれる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、大学生100人のうち5人は年収200万円未満のご家庭です。令和2年から始まった低所得家庭のための国の高等教育の修学支援新制度(P.14参照)では、給付型奨学金と入学金・授業料減免が受けられる画期的な制度です。お金がないからと大学や専門学校進学をあきらめずに、色々な制度の活用を考えてみてください。

図6 日本の大学の内訳 (2020年4月時点)

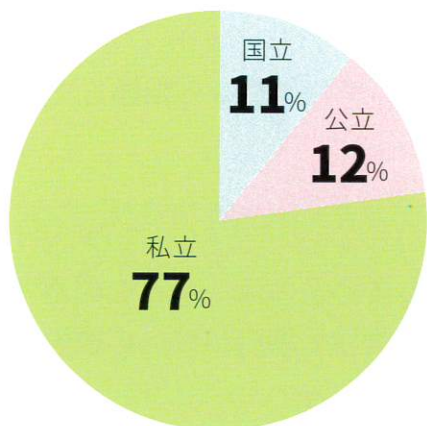


図7 家庭の年間収入別学生数の割合 (大学昼間部)

	200万円未満	200~400万円	400~600万円	600~800万円	800~1000万円	1000~1500万円	1500万円以上
私立 平均 871万円	4.8	10.3	16.9	21.3	18.3	20.3	8.1
国立 平均 854万円	4.2	10.7	15.4	20.0	19.2	22.6	7.9
公立 平均 756万円	5.6	12.8	20.2	21.4	18.5	16.6	4.9

国公立、私立よりも大きな差が出るのは、自宅から通うのか、アパートなどを借りてひとり暮らしをするのか、です。お金のことを考えれば、自宅から通うのがベストですが、日本の大学は都市部に集中しており、自宅から通える範囲に大学がなかったり、勉強したい学部がない場合も少なくありません。学生寮やシェアハウスを利用するなど家賃を抑えることも可能です。令和2年度より始まった高等教育の修学支援新制度の給付型奨学金は自宅外から通う学生により多く奨学金が支給されます。東京の私立大学では地方から入学する学生のための予約採用型給付奨学金制度があるところもあります。

図8 居住形態別の学生生活費(大学昼間部)

(単位：円)

	自宅	アパート等
国立	1,122,300	1,765,800
公立	1,130,300	1,681,900
私立	1,810,800	2,495,300

確かに、平均すると家庭からの給付額は大きいですが、86%の学生はアルバイトをし、47%の学生は奨学金を借りています。家庭からの給付なしという学生も4%います。

家庭からの援助がなくても、奨学金をうまく利用し、アルバイトをしながら大学を卒業することは不可能ではありません。留年すると奨学金が打ち切りになりますので、学業に支障のない範囲でアルバイトをしましょう。

図9 一般的な大学生は、どのようにお金を調達しているのでしょうか？

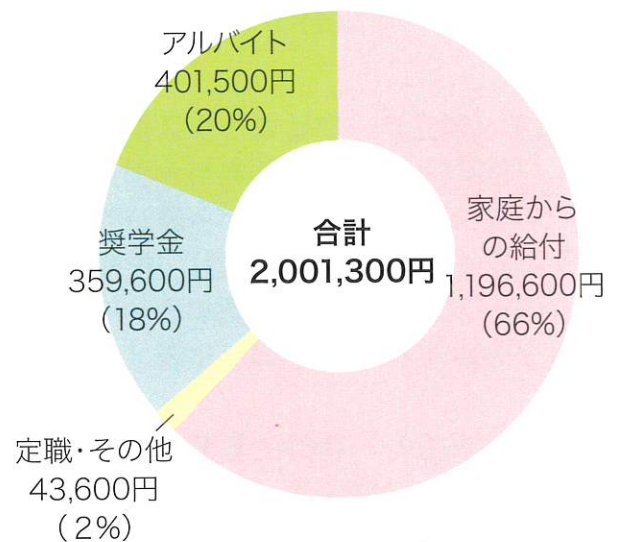
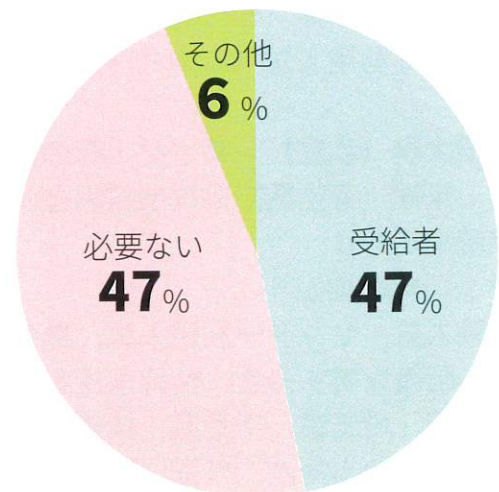


図10 奨学金の受給状況



資料 独立行政法人日本学生支援機構 平成30年度学生生活調査結果

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/_icsFiles/afieldfile/2020/03/16/data18_all.pdf

●ポイント

大学生活では、住居費と食費が大きな割合を占めます。賄い付きのバイトで食費を減らす、自炊をする、寮に入るなど、生活コストを下げるのも有効です。